

題材名 音楽で描く祖国の風景～言葉にできない想いをブルタバ川の流にこめて～

1 題材の構想

【題材観】本題材は中学校音楽科学習指導要領領域 B 鑑賞のうち、次の内容を指導するものとする。

ア〔思考力、判断力、表現力等〕：(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

(イ) 生活や社会における音楽の意味や役割

イ〔知識〕

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり

本題材で取り扱うスメタナ作曲「連作交響詩『わが祖国』より第二曲ブルタバ」は、標題を基に音楽が作られており、ブルタバ川とその周辺にある生活の有様を想像しながら鑑賞することができる。ブルタバを象徴する美しい旋律や、チェコの民族性を感じる特徴的なリズムなどは中学生にも十分共感でき、また日本とは違う風土や文化に対して憧れや興味関心をもつことができる作品である。

またこの作品が作曲された時代は、産業革命を経て急速に近代国家へと発展していく激動の時代であり、国家の主役は王や貴族から市民へと移り、それぞれの民族の独自性を音楽の中にも取り入れていこうとする活動が盛んになる。ブルタバは故郷の美しい風景、伝統や文化、日々の暮らしの苦しさ、祖国への思いなど、様々な角度から鑑賞することができる作品であり、義務教育9年間を終える生徒たちと音楽との向き合い方についても考えていくことができる題材である。

【生徒観】本学級の生徒は明るく和やかな雰囲気の中で学習を進めることができ、友達と前向きにつながりあうことができる。しかし、授業に集中できない生徒や学習に向き合うまでに時間がかかる生徒も少なくない。

本学級には吹奏楽部の生徒が8名おり、彼らは音色を聴いて楽器を特定したり、音楽の構造に着目したりしながら鑑賞をすることができる。その反面で音楽を聴いて感じたことを言葉で上手く表現できず「すごかった」「良かった」などおおざっぱな表現にとどまったり、「何を書いたらいいかわからない」と助けを求めたりする生徒が4、5名いる。彼らがそうになってしまうのは、音楽を構成する要素に着目することが苦手であると予想する。また全体的に根拠を基に説明する活動が苦手な生徒が多くみられ、丁寧に音楽分析をしていく必要がある。

以下のデータは全国学力・学習状況調査の結果である。

国語	本校：66% 全国：69% 広島県：69%	◎自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確にして書くことに課題がある。特に、情報の扱い方に関して、引用の仕方を正しく理解していない。[書くこと] (平均正答率 36.5% 全国平均との差 -10.0%) ◇根拠を明らかにして、考えを述べることに課題がある。[書くこと]
数学	本校：47% 全国：51.4% 広島県：50%	◎◇日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。[関数] グラフや表を使って問題解決すること、筋道を説明することに課題がある。[データの活用] (平均正答率 25.0% 全国平均との差 -1.9%)
理科	本校：48% 全国：49% 広島県：49%	◎◇科学的に探究する学習場面において、データを用いて行った他者の考えについて、条件と実験結果の関係や妥当性を考え、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。(設問2(3)地球) (平均正答率 13.5% 全国平均との差 -15%)

これらの結果から分かる通り、根拠をもって説明する力に課題があり、これが音戸中学校区に共通する課題でもある。

【指導観】

指導にあたって、まず第一次では標題音楽（表現したいテーマや風景などをもとに作曲された音楽）の特徴を生かし、音楽と標題のつながりを知覚する学習を行っていく。「小さな川の源流が集まってやがて大河となる」というストーリーを音楽がどのように描いているか丁寧に音楽分析をさせていき、「細い川の流れを表現する時は、フルートの高い音色で演奏している。また、川幅が増えていくにつれて楽器の数が増え、どっしりとした大河の姿は低音の弦楽器がその役割を果たしている。」など、根拠を示しながら説明できるよう指導する。さらにこの場面では源流と大河の音楽を比較させ、音の高さの違い、旋律の違い、強弱の違いなどに全員が気付けるようにする。そして題材を貫く問い「なぜスメタナはブルタバ川を音楽にしたのだろう。」を提示する。ここでは、「ブルタバ川が好きだったから」「美しい風景を紹介したかった」など、郷土愛にあふれる意見が多く出てくることを予想する。しかし、チェコという国がどんな国かよく分からない状態では、深い共感を得ることができない。よって、タブレットでチェコの風景を検索させ、広々と広がる自然の風景や絵本の中から出てきたような美しい街並みなど日本とは全く違った文化をもつチェコに「ああ、この風景なら音楽にしてみたいだろう」と共感できるようにする。そうすることで、より音楽を豊かに感受できると考える。

第二次では、「森の狩猟」と「村の結婚式」の場面を「リズム（拍子含む）」「速度」「音色」に着目させ、比較聴取させる。また、教科書に提示されている二つのシーンの冒頭部分の楽譜の中に示されている情報を比較させ、拍子やリズム、指定されている楽器の違いを見付けさせる。しかし「8分の6拍子と4分の2拍子の違いに意味がある」といっても、その意味を理解している生徒は少ないと予想する。そこで8分の6拍子のリズムは馬でかける時のリズムであること、4分の2拍子は足踏みをしながら手をつないでダンスをするリズムであることを動画で知覚させる。日本とは違う文化や歴史をもとに音楽が形成されていることや、ホルンの音色は西洋音楽では狩りや領主を象徴する楽器として提示されることを伝え、音楽の中に隠れているメッセージに気付くと音楽鑑賞の幅が広がることを伝える。またこの二つの場面の音楽は、当時のチェコの人々の生活に根差していたリズムや旋律をあえて使っていることから、自国の民族の音楽を取り入れて音楽を作った『国民楽派』と呼ばれるグループがこの時代に多く現れたこと、そしてそれらの音楽は自国の人々にとって大変共感できるものであったことを伝える。二次の最後には「どんな旋律や音色、リズムを聴いたら自分たち国の風景が浮かぶと思いますか？」と聞き、「ふるさと」や「さくらさくら」の旋律、和楽器の音色などに加え、「音戸の瀬戸（民謡）」の旋律、船が接近を知らせる汽笛の音、船をこぐようなリズム、軍艦マーチなど、自分たちの中にも同郷の者だからこそ共感できる旋律やリズムがあることに気付かせる。

次に夜のシーンを取りあげる。人間が寝静まった真夜中、川辺に現れるという水の精の姿を音楽から想像させ、「音楽が〇〇だから、この水の精の〇〇な姿を想像した」という形式で発表させ、根拠をもって説明する力を活用する場面を設定した。ここでは、フェアリーのような水の精を想像する生徒や、白鳥などの動物の姿を想像する者、竜のように体長の長い水の精が音もなく水の上をすべっていく姿を想像するものなど、生徒の個性が出ると予想する。目に見えないものの息遣いを感じ、音楽表現の豊かさを実感させたい。

第三次では「聖ヨハネの急流～プラハの街へたどり着く」という2つの場面を連続で聞き、試練の末にたどり着くプラハの街はどんな街か想像させる。長大なロールプレイングゲームのエンディングのように華々しく、力強く、プラハの街の人々が歓喜にわく姿から、スメタナの祖国へ誇りが感じられる場面である。ここでもう一度「なぜスメタナはブルタバ川を音楽にしたのだろう」と問いかける。生徒はこれまで鑑賞して知覚・感受したことを使って、第一次の時よりもより共感的・肯定的に作曲者の意図について考えることができると予想する。

第四次では、この楽曲が作られた背景を知ることを通して、「言葉にできなかった思い」について考えさせる。これまでの学習で、この曲は「川」の流れとその周辺にある風景を音楽にしたものであることが分かった。しかし豊かで美しいチェコの姿を切り取るように音楽で表現しているこの「ブルタバ」が作られた当時、

チェコはオーストリアの強い支配を受けており、人々は夜間に散歩することを禁じられたり、報道を規制されたりするなど、音楽の中で描かれている「輝く誇り高いプラハの街」とはかけ離れた苦しい生活を強いられていた。さらにスメタナ自身もこの曲を作曲した後、国外へ亡命せざるを得ず、二度と祖国に帰ることができなかった。このような背景を知ると、これまでとは違うメッセージが音楽の中から感じられるのである。まさに本題材名「音楽で描く祖国の風景～言葉にできない想いをブルタバ川の流れにこめて～」にある「言葉にできなかった思い」を音楽から見付ける学習場面である。

スメタナがこの曲を作曲した意図を考える学習活動を通して、音楽が人の人生を豊かにすることに共感し、生涯にわたって音楽を愛好する資質・能力を養ってほしい。その反面で音楽は時として多くの人の心を動かし、想像もできない力を生み出すことがあることにも気付かせたい。私たちの生活の中でたくさんの音楽が何かの目的のために意図的に使われており、音楽によって演出されていることもたくさんある。音楽とどう向き合うのか、よく考えることの大切さを伝えたい。

第五次では、本題材のまとめとして、YouTube のサムネイルと解説文を作成させる。スメタナ自身は死後 70 年以上経っているので著作権はフリーになっているが、授業で使う学習機材の演奏著作権はきれていないので、音楽をつけた状態で YouTube にアップすることはできない。著作権の学習をするとともに、ロイロノートを使って動画の表紙となるサムネイルを作成させ、この音楽の良さにふさわしい言葉と説明文をパフォーマンス課題として作成させる。音楽科、国語科、社会科、技術・家庭科など教科横断型の学習として第五次を進めていきたい。

最後に、本学級の日本語がまだ上手く使えない生徒への手立てを挙げる。1 時間の授業で生徒に発信することや授業の展開を日本語で書いたプリントを用意し、グーグル翻訳機能で翻訳できるようにする。黒板の撮影も可とし、「速度」「音色」「拍子」など授業で使う学習用語は下に英訳をつける。また、他の生徒とは違った成育歴をもっているため、皆が共有する日本の風景と少し違うと思うが、彼女の感じ方を学級内で共有し、共感的に学習を進めていきたい。

2 題材の目標及び評価規準

(1) 題材の目標

○標題と音楽の関係に着目し、旋律や音色、リズム、強弱などの変化とブルタバ川の風景の変化のつながりを見付けながら鑑賞することができる。

○音楽と歴史的背景を関連させながらブルタバを作曲した作曲者の意図について自分なりの意見をもつことができる。

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①川幅が広がっていく様子と旋律・音色・強弱など音楽を構成する要素のつながりについて理解している。	①トライアングルの音色の役割について、曲想と関連付けながら自分の意見をもっている。	①チェコの風景を調べることを通して、主体的に鑑賞活動に参加しようとしている。
②「森の狩猟」と「村の結婚式」の場面と構成しているリズムや旋律の関わりについて理解している。	②「狩り」や「結婚式」など自分たちの生活の様子を表現するために、身近なリズムや旋律を活用する良さについて自分なりの考えをもっている。	②自らの生活場面を想起し、自分たちらしさを音楽の中に取り入れようとしたスメタナの意図を感じながら鑑賞しようとしている。
③「夜の場面」を聴いて感受したイメージと「音色」「旋律」「強弱」「速度」などの関わりについて理解している。	③「夜が明けていく様子」がどのように表現されているか音楽の特徴をもとに説明している。	③自分なりの水の精の姿を想像し、イメージを膨らませながら鑑賞しようとしている。
④最大の難所である「聖ヨハネの急流」を通り抜けたどり着いた「プラハの街」の様子を音楽から想像し、作曲者の描きたかったプラハの街について「旋律」「音色」「強弱」など音楽の特徴を理解している。	④スメタナがトライアングルの「音色」を取り入れた意図について楽曲全体の解釈も含めながら自分なりの解釈を説明している。	④音楽が作られた目的や、スメタナの思いを考える学習を通して、自分の音楽との向き合い方を考えようとしている。
	⑤スメタナがブルタバを音楽にした意図や目的について自分なりに解釈し、説明している。	
	⑥ブルタバの音楽の特徴や良さやチェコの自然や歴史を基に、サムネイルの文章を工夫している。	⑤著作権を守る視点を持ちながら、サムネイルの画像やアピールしたポイントを考えようとしている。

3 指導と評価の計画（全7時間）

	時間	主な学習内容	知	思	態	評価方法
一次	1 (本時1)	<問い>この音楽は何を表している音楽だろう？ ・ブルタバの冒頭部分を聴いて自然の様子を想像する。 ・なぜその様子をイメージしたか根拠を示しながら説明する。 ・標題音楽について知る。 <問い>川幅がだんだんと広がっていく様子が想像できるのはなぜだろう？ ・標題と音楽のつながりを見つけながら冒頭の部分を鑑賞する。 <問い>トライアングルの音色はこの場面でどんな役割を担っているだろう？ ・トライアングルの「音色」「速度」「リズム」とブルタバ川のテーマを関係付けながら聴く。	①		①	・ワークシート ・ワークシート
	2 (本時2)	≪単元を貫く問い≫なぜスメタナはブルタバ川を音楽にしたのだろう <問い>ブルタバ川が流れるチェコはどんな国だろう？ ・音楽の舞台となる風景を知るためにチェコの風景を調べる。 <問い>なぜスメタナはブルタバ川を音楽にしたのだろう？ ・調べた風景と音楽を関係付けながら冒頭部分を聴き、自分の意見を考える。	①	①	①	(ロイロノート) ・ワークシート
二次	3	・交響詩や標題音楽が生まれたロマン派後期の時代の様子について知る。 ・「ブルタバ」の中には主に7つの場面があり、それぞれに標題がついていることを知る。 ・冒頭の川の様子に続く2つの場面を鑑賞する。 <問い>「狩り」の場面から「村の結婚式」の場面がはっきり変わるのは音楽がどのように変化したからだろう？ ・教科書に書いてある楽譜を比較しながら場面を分けるために意図的に変えてある音楽の要素を見付ける。 ・音色やリズムの持つ役割をもとに2つの場面を鑑賞する。 <問い>私たちが「あ！これは日本の曲だ」とわかる旋律やリズム、音色といえばどんなものがあるだろう？ ・「さくらさくら」や「音戸の瀬戸」の旋律、「清盛太鼓」のリズム、箏や三味線などの音色を想起させるとともに、身近な生活と音楽のつながりについて考える。 <問い>自分たちらしさを音楽に取り入れるとどんな良いことがあるだろう？ ・スメタナがチェコの民族のもつ旋律やリズムを取り入れようとした意図を考える。	②		②	・ワークシート ・ロイロノート ・ワークシート

	4	・前時の標題に続いて夜のシーンを鑑賞する。 <問い>夜に現れる水の精はどんな姿をしているだろう？ ・音楽の特徴を根拠にしながら、水の精の姿を想像する。 ・同じ「音色」など音楽の特徴を根拠にしながらも、想起するイメージが違ったり、説明の仕方が違ったりすることから、音楽を多面的に鑑賞する良さを感じる。 <問い>夜が明けてくる様子が想像できるのはなぜだろう？ ・夜と夜明けをつなぐために、「夜明けのマーチ」の旋律が用いられ、旋律の重なりによって時間の変化が表現されていることに気付く。	③		③	・ロイロノート ・ロイロノート ・ワークシート
三次	5	<問い>「聖ヨハネの急流」を経てたどり着くプラハの街はどんな街に描かれているだろう？ ・長い川の旅の終盤部分を鑑賞し、スメタナが表現しようとしたプラハの街の姿について想像する。 <問い>トライアングルの音色は何を象徴しているだろう？ ・「輝く」「歓喜」「誇り」などプラハの人々の生き生きとした姿を想像させる。 <問い>「なぜスメタナは川の曲を作曲したのだろうか。」 ・作曲者の思いを想像しながら楽曲の良さを見付ける。	④		④	・ワークシート ・ワークシート (振り返り)
四次	6	・ブルタバが作曲された当時の人々の暮らしについて知る。 <問い>なぜスメタナは「ブルタバ川の源流」「大河となる」「狩り」「結婚式」「夜」「聖ヨハネの急流」「プラハの街」「ビシェフラトの丘」という標題をひとつの曲の中に取り入れたのだろうか？ ・スメタナの「言葉にできない想い」を考えながらも一度ブルタバを鑑賞する。 <問い>私たちは音楽とどのように向き合っていけば良いだろう？ ・音楽が我々の生活に与える影響について考え、自分の人生をより良くしていくためにどのように音楽と向き合っていくか考える。			⑤	・ワークシート ・ワークシート
五次	7	・YouTube 用サムネイルで提示したいキーワードや文章を考える。 ・写真や音楽に関する著作権について知る。		⑥	⑤	・作品 (ロイロノート) ・作品 (ロイロノート)

4 本時の目標（1／7時間目）

○標題と音楽の関係に着目し、旋律や音色、リズム、強弱など音楽を構成する要素とブルタバ川の情景のつながりを見つめながら鑑賞することができる。

5 本時のためのルーブリック

<知識・技能>

評価 A	評価 B	C 基準の生徒への手立て
楽器が変化することで、音の高さがだんだん低くなる特徴に気付いており、音程や楽器の音色の変化をもとに説明している。	川幅が広がっていく様子と旋律・強弱など音楽を構成する要素のつながりを見付けている。	「旋律」を形で描いて示したり、「強弱」の変化にのみ着目させたりして、音楽の変化を捉えられるようにする。

<思考・判断・表現>

評価 A	評価 B	C 基準の生徒への手立て
トライアングルが一定の間隔で鳴らされていることに気づき、そのことから着想を得ている。	トライアングルの音色の役割について、曲想と関連付けながら自分の意見をもっている。	友達の意見を比較させて、自分は何の意見に近いか問い、発想の手立てとなるようにする。

6 本時の展開

	学習活動	○主な発問　・予想される生徒の反応	☆評価規準 【評価方法】
導入	1 音楽を聴いて、情景を想像する。	○この音楽は何を表している音楽だと思いますか？ ・旋律が流れる感じがしたので、自然の中で風が吹いている感じがした。 ・だんだんと力強い演奏になったので、ヨーロッパの大きな町を想像した。	
	2 「交響詩」「標題音楽」について知る。		
本時のめあて：ブルタバ川って一体どんな川！？ 標題と音楽のつながりから想像しよう			
展開	3 標題をもとに冒頭部分の情景を想像する。	○川幅がだんだんと広がっていく様子が想像できるのはなぜでしょう？ ・楽器が少しずつ重なっていくので、流れが集まってくる様子が分かる。 ・強弱が p から f へと変化するので水量が増えた感じがする。 ・小さな流れの時と大河になった時とで楽器の数が違う。 ・楽器の音程がだんだん低くなっていくので、力強くなる。	☆川幅が広がっていく様子と旋律・音色・強弱など音楽を構成する要素のつながりについて理解している。 (知識・技能①) 【ワークシート】
	4 トライアングルの「音色」「速度」「リズム」とブルタバ川のテーマを関連付けて想像する。	○皆さんも良く知っているトライアングルの音色が聴こえますか？実はこのトライアングルはこの曲の色々な場面で意図的に使われています。 この場面でどんな役割を担っているだろう？ ・1音だけを響かせるように打っているので、水が跳ねているように聴こえる。 ・音色が響く感じなので、太陽の光が川面で反射しているように聴こえる。 ・トライアングルの音色も旋律もあんまり明るい感じがしないので、ちょっと不安な感じに聴こえる。	☆トライアングルの音色の役割について、曲想と関連付けながら自分の意見をもっている。 (思・判・表①) 【ワークシート】
≪単元を貫く問い≫なぜスメタナはブルタバ川を音楽にしたのだろう			
終末	5 チェコやブルタバ川の様子を想起する。	○なぜスメタナは自分の国の川を音楽にしようと思ったのでしょうか。次回はチェコやブルタバ川について調べてみましょう。	

- 7 本時の目標（2／7時間目） ※期末試験の関係があるので，2時間目の授業を行う可能性がある。
○チェコの風景を調べることを通して，主体的に鑑賞を行うことができる。

8 本時のためのループリック

<主体性>

評価 A	評価 B	C 基準の生徒への手立て
ブルタバに出てくる標題をもとに情報を集め，音楽と関連付けながら鑑賞活動をしようとしている。	チェコの風景を調べることを通して，主体的に鑑賞活動に参加しようとしている。	日本の川や風景の画像を用意しておき，音楽が生まれた背景の違いを比較できるようにする。

9 本時の展開

	学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応 ◇主な留意点	☆評価規準 【評価方法】
導入	1 前時の学習を振り返る	○前時は標題を基に、川が変化していく様子を鑑賞しました。音楽を聴いていると見たこともない川の様子がなんとなく想像できましたね。音楽って不思議ですね。今日はチェコという国がどんな国なのか情報を集めて、さらにイメージを膨らませながら音楽を聴いてみましょう。	
	本時のめあて：絵本の中のような国ってホント？イメージを膨らませて音楽を聴こう。		
展開	2 タブレットを使ってチェコやブルタバ川について調べる。	◇チェコやブルタバ川のイメージが膨らむ情報を集めてロイロノートの指定されたシートで調べたことをレイアウトし提出させる。	
	3 調べた内容を紹介しあい、チェコのイメージを共有する。	◇鑑賞活動の土台となるイメージを共有して、音楽から情景を想起しやすくする。 あくまで土台づくりなので、長くならないようにする。	
	4 調べた風景と音楽を関係付けながら冒頭部分を聴き作曲者の意図を考える。	○なぜスメタナはブルタバ川を音楽にしたのでしょうか。 ・美しい風景を音楽にして色んな人に届けたかった。 →色んな人とは？ ・チェコの人 ・チェコを知らない人 ・故郷の美しい風景を記録したかった。 ・源流の風景から大河までのシーンを表すことで、この国の成り立ちを表現したかった。	☆チェコの風景を調べることを通して、主体的に鑑賞活動に参加しようとしている。 (主体性①) 【ワークシート】
終末	5 音楽で故郷を表現したい気持ちについて考える。	○故郷の風景を音楽にする気持ちは共感できますね。皆さんだったら音戸のどんな風景を音楽にのこしたいですか？ ・音戸大橋からの風景。 ・高須のバス停から見える朝の海。 ・夕暮れの海。 ・夜景と海。 ○音楽の表現する力ってすごいですね。次回は「川」の場面が出てきます。なぜ川以外の場面が必要だったのでしょうか。次回も皆で考えていきましょう。	